

目次

日中社会学会第24回大会自由報告の募集 1
第4回若手萌芽研究会発表者報告・・・1

在中通信・・・2
事務局からのおしらせ・・・7

■日中社会学会第25回大会自由報告の募集

根橋正一・浅野慎一（大会担当理事）

日中社会学会第25回大会は、6月1日（土）、2日（日）の両日、成城大学において開催されます。

つきましては、下記の要領で自由報告の募集をいたします。皆様からの多数のご参加をお待ちしております。

（1）報告申し込み（報告題目と概要）

期限：4月6日（土）

*準備の都合上期限厳守をお願いいたします。

方法：報告題目と報告概要（4～5行）を下記の大会担当理事へ、原則としてEメールで申し込んでください。所属、連絡先の電話番号及びFAX番号もお知らせください。

自由報告受付先：根橋正一（流通経済大学）
nebashi#rku.ac.jp

*送信の際は、#を@に変えてください

（2）報告要旨の提出

期限：5月7日（火）必着

方法：Eメール（添付ファイル）にて、事務

局へ提出。

書式等：提出されたファイルをそのまま印刷しますので、下記書式を厳守してください。

①A4用紙横書き2枚以内。

②1ページ40字×40行。明朝体10.5ポイント。余白は、上下30mm、左右28mm。

③報告タイトル、氏名、所属を明記のこと。

報告要旨受付先：事務局（南裕子）

yminami#econ.hit-u.ac.jp

*送信の際は、#を@に変えてください

○第4回若手萌芽研究会発表者報告

野村弘美

一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程

昨年12月15日に一橋大学にて開催されました若手萌芽研究会で報告をさせていただきました。報告のタイトルは「中国における社会的ネットワークについての一考察—都市エリート層を中心として」としました。今回の報告は、現代中国社会において紡がれる社会的ネットワークについて考察することを目的としており、全国総合社会調査（CGSS）のデータを使用した定量的な分析から、都市エリート層における社会的ネットワーク状況および社会ネットワークから受ける経済

的な利益について分析しました。報告後の質疑では、本報告の理論的背景である社会階層論についてのご指摘、データ解釈についてのアドバイス、中国における「春節の訪問」といった社会的ネットワークの現状に関する情報などを頂戴しました。ご参加いただいた皆様から、多くの意見をいただき、時間が経つのがあっという間でした。

今回の報告は、一つの論考としてまとめましたが、博士論文の一部とする予定です。そのため、定量分析の結果とともに、理論的な枠組みについても常に頭を悩ませてきました。今回の研究会において、本報告にとどまらず、論文の深部に至る点にまでアドバイスをいただき、今後の博士論文執筆に対してたいへん有用な財産となりました。最近、フィールドから遠ざかっておりましたが、今回の報告において新鮮な情報に触れ、心を新たに研究に取り組むことができそうです。また、長時間の報告にも関わらず、最後まで真剣にご議論いただいたことを心より感謝いたします。

お忙しい中、研究会の手配をしてくださった陳会長、南先生、池本先生、中村先生、参加してくださった皆様、貴重な報告の機会をくださった皆様に御礼申し上げます。

■ 在中通信 No.1

恋愛観と結婚観 (2)

蘭州理工大学 (外教) 伊藤麻沙子

日中社会学会のみなさま、こんにちは。蘭州に滞在中の伊藤です。中国のお正月が近づいてきました (編集者注: 原稿は 2013.1.28 に受領)。街路樹の電飾装備や龍の巨大模型など、そろそろ街中のデコレーションが始まっています。大学も冬休みに入り、学生が構内から消え、食堂もしまり、閑散としてきま

した。いよいよ1年で最も列車の切符が買にくい季節の到来です。今回の在中通信は、前回の続編 (現代中国の人々の恋愛観と結婚観) について通信したいと思います。

日本では高校や大学1年から恋人がいても驚くことではありません。しかし、中国では「ちょっと早い」という感覚の人が多いようです。高校でも大学でも「勉学第一が基本」と思われているからです。日本にいた頃、私の周囲では最終学歴から5年以内に結婚する人が多かったように思います。つまり、高卒なら22歳~23歳、大卒なら26歳~27歳といったところでしょうか。

私がこれから書くのは主に女子大学生の当世恋愛事情です。最近の女子大学生の恋愛は、なかなか活発です。私が教えている大学の場合、大学1年から彼氏がいる学生は多くありません。1年生や2年生で彼氏ができる女の子たちは、大学のクラスメートの中から探したり、夏休みや冬休みに地元へ帰省した際、中学や高校の同窓会を通して見つけるそうです。多くは3年生の後期から4年生にかけて、授業のサボり方を覚えたり、卒業後の進路を探す時期になると、あちらこちらからの紹介が始まって彼氏をゲット!するようです。

日本では「恋愛と結婚は別!」という言葉をよく耳にします。つまり、男性でも女性でもある人と付き合ったとしても、その人と結婚するかどうかは分からないわけです。中国では多くの大学生が「結婚を前提に……」と考えているようです。私が驚いたのは女子大学生たちに彼氏と付き合った理由を尋ねると、「ふるさとが同じだから。」と答える人が多いことです。逆に、ある男子学生を好きになっても、「ふるさとが遠いから。」という理由で付き合えないと答えます。在学中に地元が違う人を好きになったり、あるいはそい

う人に告白されても、「ふるさとが遠いから、今付き合っても、どうせ卒業したら別れるから。」という理由で交際を断る人たちも多いです。そして実際に、卒業間近に「ふるさとが違うから。」という理由で次々に別れていく光景もよく目にします。こんなにも地元が同じことが付き合う条件の1つとして重視されているのにはビックリでした。ちなみに、なぜ地元が同じだとよいのかと尋ねると、「方言／食べ物の好み／考え／生活習慣が同じだから。」「結婚するとき、家が近い方が便利だから」と答えます。

もう1つ、驚いたことは「親が賛成／反対したから。」という理由で、彼氏と付き合ったり別れたりすることです。極端な場合は、親に交際を反対されて自殺してしまうケースもあります。

この2点から考えると、中国の女子学生（特に西北部）にとって、恋愛と結婚は直結していて、気軽に恋愛！という感覚ではなく、親をも巻き込んだ「覚悟」が必要なのではないかと思いました。ある女子学生が「恋人になると大変です。相手のことを自分のことと同じように背負わなければなりません。でも、男友だちなら大丈夫です。」と話していましたが、この「背負う」は中国語では「付出」という言葉で表現されます。「付出」の原義は「(現金を)支払う／(代価を)払う」です。これが転じて、恋愛関係で「为他／她做了很多事」という意味で使われているようです。このような「付出」には、やはり「覚悟」が必要です。

恋愛＝結婚という「覚悟」不要で、何となく恋愛感覚を味わえる場合もあります。それは、日本語では「友だち以上恋人未満」という男女の微妙な関係のことです。中国語では「蓝颜」(女性にとって何でも話せる男性)や「红颜」(男性にとって何でも話せる女性)

と呼ばれています。彼氏／彼女(あるいは夫／妻)には言えないけれど、「蓝颜」や「红颜」には話せる！あるいは、本当に自分のことを理解してくれるのは「蓝颜」や「红颜」！という人たちもいるようです。ある女性／男性にとって、この「蓝颜」／「红颜」は1人ではありません。たいていは2～3人います。そして恋人ができる前にも後にも、結婚前にも後にも、この「蓝颜」や「红颜」は存在するようです。

では、この「蓝颜」や「红颜」はいわゆる「浮気相手」なのかというと、完全にそうだとも言えません。たとえば、男性にとって「都合のよい女性」は「小三儿」と呼ばれます。これは日本語の「愛人」に当たる存在で、いわゆる「浮気相手」のことです。したがって、ある男性が恋人あるいは奥さん、「红颜」、「小三儿」をもつケースも当然考えられます。女性にとって「都合のよい男性」を表現する言葉があるのかどうかは、今のところ分かりません。

さらに、クラス内や同級生同士、大学内の他学科にお互いに「大哥」「姐」「妹妹」「弟弟」と呼び合う人たちがいます。学生の日常会話の中でしばしば「(夜,) 妹が泣いて電話してきたから、ちょっと行ってくる!」「お兄さんが卒業するから、時計をプレゼントしようと思って……。」「お姉さんに会いたいな〜。」などといった言葉を聞いて、私は最初、中国のきょうだいは仲がいいな〜と思っていました。のちのち、話を聞いてみると、血のつながったきょうだいでもなければ、親戚やいとこでもないことが分かりました。このような友人関係における「きょうだい」はふつうの友だちよりも大切な友だちで、これも前回書いた「責任感」からなのか?と、ふと思いました。それにしても、「微妙な関係の異性の友人」が多いことには驚かされました。

さて、次に結婚観についてですが、まず重視される「結婚の条件」は、第1に「家（や車）があること」、第2に「収入が高いこと」、第3に「背が高く痩せすぎでないこと」などです。その他、「富二代」（事業で成功した親を持つ息子）や「官二代」（国営企業や公務員で成功した親を持つ息子）も人気があるようです。

また、近年「剩女」という言葉もよく耳にします。これは1970年代～1980年代生まれの都市部に住む「高学歴」「高収入」「美人」の3つの条件を兼ね備えた女性を指します。自分自身の条件も高いけれども、結婚相手に求める条件も高いために恋人や結婚相手が見つからずに余ってしまう（剩）女性（女）という意味だそうです。日本で数年前に流行した「負け犬」という言葉に似ています。

新語といえば、「閃婚（出会ってから結婚するまでの期間がとても短い結婚、日本語の「閃き婚）」、「毕婚（大学卒業後すぐに結婚）」、「丁克家庭（夫婦共働きで子どもナシ）」、「裸婚（役所に婚姻届を提出するだけ）」という言葉も出てきています。こうした新語は日本では普通のことのように思われますが、中国でも新しい社会現象が見られるようになったことを示しています。ただ、全体的な数としては少数派だと思います。

ある学生が卒論を書く際に一緒に調べたことですが、約20年前（1991年）に日本人が中国の女子大生を対象に行なった簡易アンケート（信太謙三、1991、『中国ウオッチング』）と、現在インターネットで20代～30代の男女を対象に行なったアンケート（2011、お見合いサイト「世紀佳緣」）を比べてみました。

これらのアンケート結果は「今の女子学生と母親世代の結婚観の違い」とみなせるかもしれません。あくまでも参考程度ですが。

どこの国でも結婚する際、一般に男性の経済力が重視されると思いますが、近年の中国ではこの男性の経済力を過剰に重視する傾向があるようです。結婚相手の女性に送る「結納金」の金額も高くなっています。貧しい農村でも5万元～10万元が当たり前になってきました。

女性が望む結婚相手の条件（複数回答）

質問項目	1991年（％）	2011年（％）
経済的に豊かで余裕がある	2	26
家と自動車がある	—	4
社会的地位が比較的高い	4	11
高い道徳観念と情操をもっている	80	—
人間性／性格	—	76／49
知識が豊富で仕事上の能力が優れている	85	—
学歴	—	18
家柄の良さ	—	21
容姿および身長	—	38

このように確かに、中国の経済成長の影響が結婚にも及んでいることは事実です。女子学生たちも常日頃、口をそろえて「お金」を結婚の条件の筆頭に挙げます。しかし、現実には結婚の条件として最も重視されているのは、20年前は「高い道德観念」や「情操」という言葉で、現在は「人間性」や「性格」という言葉で表現されることのようにです。「你没有素质!」という言葉聞いたことがあります、この「素质」は「公共マナー」のことで、「人間性」の中に含まれます。つまり、親孝行や助け合いといった従来の道德観念はもちろんのこと、これに公共マナー（たとえば、道路にゴミをポイ捨てしない、列に割り込まないなど）も付け加えられたために、「人間性」という拡張概念になったのかもしれない。

「とりあえず彼氏と付き合っ（同棲して）から結婚を考える」か、「結婚するから彼氏と付き合ったり（同棲したり）できる」か、という矢印の違いが恋愛や結婚における「責任感」や「覚悟」の違いを生み出し、これが日本の女子学生と中国の女子学生の大まかな違いなのかな～と思いました。

■ 在中通信 No.2

在中レポート

丹波秀夫

蘭州理工大学(外教)

新年のごあいさつ

日中社会学会の皆様、遅ればせながらあけましておめでとうございます。蘭州理工大学の丹波です。昨年に引き続き中国は蘭州からのレポート、本年もよろしくお付き合いを頂ければ幸甚です。と言いつつ、実はこのレポートは大阪で書いています(学期末試験の実施と採点および成績登録を早々に済ませて日本に一時帰国中なのです)。およそ1年ぶ

りになりますが、やはり日本は過ごしやすいですね！なにせ学生の話によれば、地元蘭州の冬の気温は寒い時でマイナス20度以下まで下がるそうですから、日本ではちょっと想像しにくい程の寒さです。たしかに、マスクをしなければ講義に向かうちょっとした外出の間でさえ、寒気のせいで鼻や喉にツーンと痛みが走っていたものです。それでも年始頃まではマイナス15度くらいが最低気温でしたから、まだましだったのでしょうか。雪を見て「珍しい!」とはしゃいでいたフロリダ出身の英語学科同僚(寒がりなのに冬も蘭州に滞在)の身を案じてしまう今日この頃です。

本題

さて、残念ながら前回執筆時に引き続いて日中関係は緊迫したままのようです。2012年9月に中国主要都市で大規模に行われた反日デモ群発から、最近ですと沖縄県・尖閣諸島周辺領海に中国からの海洋監視船3隻が侵入したとの報道があるなど、今日に至るまで日中関係にまつわる事件は継続しています。先だって第2次安倍晋三内閣が発足した当時から(当方は肅々と期末試験を実施していましたが)、日本政府は不必要な妥協はしないことを外交方針としており、今後も尖閣諸島を巡り、中国政府からさまざまな干渉があることが見込まれます。中国で仕事をさせてもらっている日本人の一人として両国政府の動向を注意深く見守る必要があることは言うまでもありません。しかし、まさかその「飛沫」がわが身にまで及ぶことになるとは思ってもいませんでした。なんと蘭州で「草の根反日デモ」に遭遇したのです。

それは、大規模な反日デモが起こる前の7月のことです。ある日の昼過ぎに野菜を買いおうと大学近くの市場に行きました。この市場は、それほど大きくはありませんが、野菜、

果物、卵、鮮魚、麺類や包子が売っていたり、小さなコンビニや刀削麺などの食堂も何軒かあるため、便利でよく利用しています。そこで野菜を選んでいると突然、黒のタンクトップにジーンズ、スニーカー、少し焼けた肌をした黒髪短髪の筋肉質な青年に話しかけられました。もとい、絡まれました（苦笑）。彼は市場にいる当方と妻に大声で罵声を浴びせかけ、（といっても中国語と拙い英語でした。日本語を習ってなくても「ばかやろう」という言葉は知っていたようです。他には「少日本」や「I hate you」など）しつこく挑発をし続けました。当方は周囲の人達に助けを乞うような視線を送るも、彼のあまりの勢いと怒鳴り声に市場にいる人達は皆、遠巻きに当方を見守るばかり…。当方がはぐらかしていると次第に「かかってこい！」というようなジェスチャーも見せてきましたが、喧嘩をしてもこちらに良いことは一つありませんので、危害が加えられないようにだけ気をつけながら相手をしないようにしていました。幸い、ある程度のところで彼の連れが彼をなだめて連れて行ったので暴力沙汰にはならず事なきを得ましたが、中国に来て初めて「日本人である」というだけで怖い目にあったのでびっくりしたものです。

後日談

当方らの生活圏でこのような出来事があった以上、彼が今後何をしてこないとも限りませんから、できる限りの対策を立てておく必要があると考えました。もし彼が学生であったなら、教員を恫喝したかどで何らかの社会的制裁を加えることができるかもしれませんが。制裁とまではいかないにせよ、抑止するための手段を講じておかなければ今後の活動にいつも心配がつきまといまいます。数日後、この日も何か手はないものか…と考えなが

らキャンパス内を歩いていると、なんと彼がいるではありませんか！その頃は寮を退去する4年生の身辺整理の一つとして、フリーマーケットが学内で行われており、そこで彼も店を出していたのです。この時点でおそらく学生だということは判明したのですが、（中には明らかに学生でなさそうな人たちも出品をしていたので）確認が必要でした。当方は顔を知られているので、日本語学科の学生に事情を話して聞いてもらったところ（少し離れたところから様子を見守る当方…）、社会人学院の学生であることや氏名が判明しました。かくして、学科を通じて彼の所属する学科に問い合わせ、対応を要求することになったのです。

日本語学科の主任に詳しい経緯を書いたメールを送ってから何日か経ったある日、彼の所属する学科長が直接彼に事情を聞いたのだしたとのこと、また、彼に対して当方がどのような措置を望むかについて問い合わせがありました。そこで、当方からは、1) 彼が今後そのようなことをしないと誓約および、2) 以後、万が一彼がそのようなことをした場合に処罰のあること、3) 上記のことを承諾したことを示す署名入りの書面を作成し、4) 当方にもその写しを渡すことを要請しました。今回の件については特別な罰を要求しなかったこと、直接的な謝罪の機会を要求しなかったことなどである程度譲歩をしたつもりです（要は継続的な挑発を制限できればよかったので、彼のメンツを完全に潰す必要はありません）。

今回の件では、学科長や主任には早くに対応して頂いて大変ありがたいことでした。また、所属学科の学生達のリアクションがとても嬉しかったのも印象に残っています。「学生達はみんな先生の見方ですから！」ととても心配し、励ましてくれたり、また、実際に

尽力をしてくれた学生もいます。国家レベルでの日中関係は依然デリケートな部分もありますが、個人レベルでは友好的な関係を築けるのだと改めて思った次第です。さて、その彼にも制限をつけることに成功したので、今度会ったら少し話をしてみたいと思っています。できれば通訳役の学生も交えて一席設けられたらとてもおもしろい話が聞けるかもしれませんね。

□事務局からのお願い

・メルマガ届いていますか？

本学会では、メーリングリストによる広報を行っています。事務局へご登録いただいたメールアドレスへ、「日中社会学会メールマガジン」が配信されます。

登録がまだの方、また、メールアドレスに変更のあった場合は、事務局までお知らせください。

・情報をお寄せください

会員の皆様で、出版物のご案内や研究会・シンポジウムの開催のご案内などがございましたら、事務局まで情報をお寄せください。

・住所変更の際はご一報を！

2012 年末に学会誌、会費振込み用紙を発送いたしました。が、数件返送されてしまいました。また 3 月は異動、住所変更の多い季節です。今後、大会、理事選挙に関する郵便物の発送も予定されています。最新の住所を事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

日中社会学会ニューズレター
No. 67 編集：池本 淳一
(早稲田大学)

発行：日中社会学会事務局

〒186-8601 東京都国立市中 2-1
一橋大学・南裕子研究室

info#japan-china-sociology.org

yminami#econ.hit-u.ac.jp

(送信の際は、#を@に変えてください)

tel: 042-580-8810 (研究室直通)

fax: 042-580-8799 (共同研究室のため南宛を明記してください)

○日中社会学会・郵便口座

口座記号番号：00140-9-161801

加入者名：日中社会学会

○日中社会学会・公式 HP

<http://www.japan-china-sociology.org/>

発行日：2013 年 3 月